第II部　データファイル

A　データファイルの利用法

A．データファイルの利用法

以降に前兆現象データベースの中身を出力したデータファイルを載せる。データファイルは前兆ファイル（前兆番号でソートした前兆ファイル（1）と地震番号でソートした前兆ファイル（2）から成る），震源ファイル，文献ファイルから構成される。また，最後に文献番号—前兆番号対応表も付加しておいた。これらのファイルの利用法を簡単に説明する。なお，パソコンで例えばd-BASE IIIなどを用いれば，以下のことは簡単に行える。

1）特定の前兆種類について調べたいとき

前兆ファイル（1）は前兆種類コード順に並んでいるので，目的の前兆種類コード番号を前兆番号（PCNO）の上2桁から捜すか，前兆種類（TYPE）から直接捜して見つける。見つけた前兆に対応する地震及び文献は地震番号（EQNO）及び文献番号（LNO）をもとに，震源ファイル，文献ファイルから捜す。

2）特定の地震について調べたいとき

まず，震源ファイルから目的の地震を見つけ，その地震番号（EQNO）を得る。次に，地震番号順に並んだ前兆ファイル（2）を用いてその地震番号に対応する前兆及び文献を捜せばよい。

3）特定の文献について調べたいとき

まず，文献ファイルから目的の文献を捜し文献番号（LNO）を得る。次に，文献番号—前兆番号対応表から対応する前兆番号を捜し，前兆ファイル（1）を用いてその前兆及び地震を見つければよい。